

大研究 メール一本で、
みんなにさようなら

大研究 いまこんな簡単な「最期」が流行っています。
メール一本で、みんなにさようなら
 そのための準備と注意を教えてください
 徹底コーナー 何を書くか、誰に送るか、どうやればいいのか、もらったほうも「あなたらしい最期」と歓迎、大切なのはきちんと決めておくこと、教えます。 死んだ後に、あなたのパソコンの記録をどう消すか
 187

専用の「消去ソフト」も登場

「死後の世界」は、プログラマーのゆき氏が公開しているソフトウェア（同氏ホームページ <http://www.yuki-pow.com/>）の「ダウンロード」コーナーで「ユーティリティ」を選ぶと専用ページへのリンクがある。

あらかじめ決めた日付まで自分がパソコンを使わなかった場合、死亡など何らかの問題があったと判断。次にパソコンを起動した際に、「遺言」にあたるメッセージを画面に表示するとともに、指定しておいたデータを削除してくれる。日付の選び方は、年月日を指定するか、「最後に起動してから指定した日数の間、起動しなかった場合」などと設定することも可能だ。一方の「僕が死んだら…」は、有限会社シーリスが開

発・公開している (<https://www.cjis.co.jp/>)。

画面に「自分が死んだらこれを読んでください」と遺族を誘導するファイルを作成しておき、その遺言を表示すると、同時に見せないファイルの削除が始まるというもの。

遺言部分のファイルは暗号化されるため、ネット関連のIDやパスワードなどの重要な情報を書き込んでおいても安心だ。

消去するフォルダとしては、動画や写真など、見せたくないデータを保存したフォルダや、インターネットの履歴などが保存されている「一時フォルダ」、受信したメールが保存されているフォルダなどを指定してもよいだろう。

こうした方法でパソコンの中身を消すのはハードルが高いという場合、家族に、「死後は、友人知人に送るメールだけ送信してほしい。その他のことはせず、パソコンは処分するように」と頼んでおくこともできる。だが悪質な中古パソコンの引き取り業者などの中には、古いパソコンからクレジットカードの番号などの個人情報抜き出し、悪用する例もある。

そうした心配を防ぐために利用できるのが、パソコン内の情報を完全に抹消してくれるというサービスだ。

一般社団法人遺品整理士認定協会が運営する、MIS お焚き上げステーション (<http://me-mind.org/>) は、通常の遺品だけでなく、パソコン内でデータを蓄積しているハードディスクや携帯電話、スマートフォンなどを物理的に焼却するなどして、「お焚き上げ」によって供養するサービスを展開している。

手持ちのパソコンのなかだけにある情報ならば、以上のような方法でどうにか

消すことはできる。だが、さらにやっかいなのは、データそのものはインターネット上に存在する、ブログやフェイスブックなどのSNSだ。発信者の死後もいつまでも残りつづけるゾンビのようなSNSのページが、現在急速に増えている。「生きているうちにSNSを全部やめてしまうというのは、自分で他者との交流手段を狭めてしまうことなので、おすすしません。最低限、使っているサービスのIDなどをリストアップして家族に残すとよいでしょう。『自分が死んだらツイッターにログインして、何月何日に永眠しましたと書き込んでほしい』などと頼んでおくとなおよいと思います」（古田氏）

メールでの最期の挨拶など、ひと昔前には誰も思いつきもしなかったような新しい逝き方の世界を切り開く、パソコンやインターネットの世界。注意点には気をつけながらも、すつきり心置きなく旅立つために、その能力を活用してみたいかがだろうか。